

防木ジャーナル

THE BOSUI JOURNAL

ROOFING/SIDING/INSULATION/RENEWAL

3

2021

No.592

特集

- ◆ ウレタン防水の先端技術
- ◆ いま求められる外壁防汚技術



根が入り込んだ排水桝と埋設管

鈴木 哲夫

(有)鈴木哲夫設計事務所 代表取締役

新築後18年目の2階建て木造住宅で、2階のトイレ排水の流れが数年前から徐々に悪くなり、便器の詰まりが発生するようになったとの相談があった。

排水経路を図面で確認すると、1階と2階は別系統で排水されており、2階用の排水桝を確認したところ、開けてびっくりである(写真1, 2)。そして桝に接続した埋設管には、写真1(右上)のように、長さ1.3mほどのホウキ状の根が入り込んでいた。

桝はコンクリート製の市販品で、埋設管と桝との接続部は、隙間をモルタル詰めて成形する。ところが埋設管接続部の下(裏側)は、見えにくいのでしっかりした隙間塞ぎができていないことがあるため、そこから根が入ることが多いのだ。ご多分に漏れず、根をたぐっていくと、接続部から根が入り込んでいた。さらに、排水上流側の埋設管は、建物の配管と接続されているので、管の中から根が出るはずはないにもかかわらず、管内から桝に広がる根もあった。

早速、上流側を掘削し埋設管の接続状態を確認したところ、写真3のように建物基礎から排水管が出ており、接続部AおよびBは、継手を使わずトーチバーナーで塩ビ管をあぶり、無理やり押し込むように接続していた。

そのうちBの接続下部は、根が伸びていた。配管の下側を確認したところ、写真4のとおり、塩ビ管の下側に小石が絡んだ状態でシワがあり、口あきがあった。そして、矢印部分の隙間から根が配管内に侵入していたのである。このようなお粗末な接続状態をよくぞ見逃せたものだ。

桝の近くには、樹木や草花が植えられることがよくある。また、植栽内に桝があることもよく見かける。植物は、水の臭いを嗅ぎつけ、伸びる性質があるので、配管などの接続不良があると根が入りやすい。排水桝の設置の状況にもよるが、時おり桝蓋を開けて内部の状態を確認することが求められ、根の入り込みがないかの確認や、根入りがあれば取り除くだけでなく、桝の外側の配管接続回りな

どの隙間塞ぎを徹底して処理するようにしたい。こんなずさんな工事が見つかるとは思えない。

(有)鈴木哲夫設計事務所
代表取締役

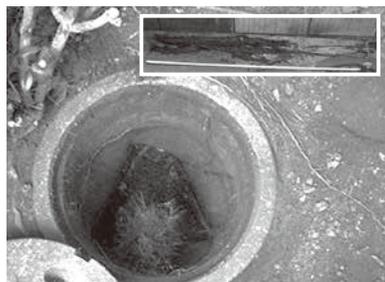


写真1 桝内の根の入り込みと埋設管内にホウキ状に伸びた約1.3mの根



写真2 桝の配管接続部の隙間から桝内に広がった根

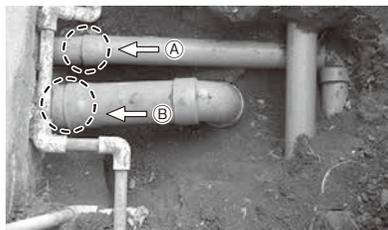


写真3 円内は継手を使わず、トーチバーナーであぶり接続した塩ビ埋設管

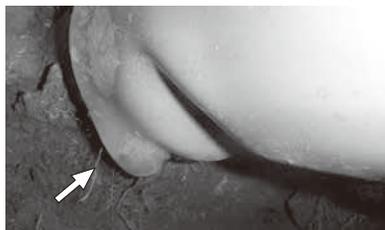


写真4 あぶり接続Bの配管下側に、小石が絡んだ隙間から根が侵入している(矢印は根)